

渥美半島

四季ものがたり

小川 悟 Satouji Ogawa

はじめに

渥美半島の「渥美」の名はどこから来たのだろうか。

『渥美郡史』には、はじめに安曇氏あづみについての記載が出て来る。安曇氏は、海人あまと呼ぶ漁労に従事していた人たちを率いて勢力を伸ばしたとある。彼らは、伊勢湾を始めとして紀伊、瀬戸内海の各地に勢力を伸ばしていた。今の愛知県で言えば、海部郡、旧碧海郡も、海人の部族が開拓したものであろうとしている。

では、「渥美」は「安曇」ではなく、なぜ「渥美」なのか。

『渥美郡史』は言う。

「いつの頃よりか安曇の名は郡の名となつて渥美と呼ばれるようになったのである。」

それは、大化の改新前後までさかのぼる。

渥美半島は、別名「奥郡おくしむ」と呼ばれていた。古代には、「沖郡」と言っていたという書物もある。三方を海に囲まれた地であることをよく示している。海に囲まれた地であるが故に、陸路の交通が限られてしまうことは、今も昔も変わらない。ただ、交通手段で言えば、昔は水路が高速道路のようなものであったが、今の高速道路は陸路である。今にして、「奥郡」の言葉が胸に突き刺さる。

しかし、どうだろうか。

海に囲まれ、人々の出入りが少ない地域であるからこそ生き続けているもの、かけがえないものもあるのではないか。

半島にしかない四季は必ずやってくるし、半島の風土には唯一無二の個性がある。その個性は長い年月を経てつくられてきた。そこで暮らす人々が今もいる。

渥美半島の四季に見られる自然や歴史・風土の一コマ一コマを物語として綴ってみようと思った。新たな渥美半島を見付けるきっかけになるかもしれない。

もくじ

はじめに

立春

渥美魚市場 競り人の声が春を呼ぶ…………… 10
灯台と神島 ここに来れば…………… 14

雨水

「菜の花」巡り 観光客の気分になってみた…………… 18
キャベツ畑になった地 西山開拓地の足跡…………… 21

啓蟄

越戸の大山 最高峰の山が春を迎える…………… 25
「免々田川」周辺 賑わいを創り出す…………… 29

春分

藤七原のシデコブシ 感じ方が変わってきた…………… 32

桜半島 壮大な絵の中で…………… 35

清明

華やぐサンテパルク 春の息吹に目が…………… 39
今も昔も『おんぞさん』 新たな出会い…………… 42

穀雨

潮干狩り日和 醍醐味を知る…………… 45
『海上の道』 海の道は確かにあった…………… 49

立夏

田のある風景 人々が自然とともに…………… 53
若葉際立つ長興寺山 戸田氏の眠る里山…………… 56

小満

庄司川のホタル ふうわふうわと舞うを見る…………… 59
けんか嵐合戦 子どものようにはしゃぐ…………… 62